

節目を迎え、魅力あるまちづくりに 向けた新たな一歩へ



旭市長

米本 弥一郎

明けましておめでとうございませう。

市民の皆さまには、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年が幸多く、笑顔あふれる一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。昨年を振り返りますと、本市にもゆかりのある渋沢栄一の新1万円札発行や、パリオリンピック・パラリンピックでは、千葉県出身の選手がさまざまな競技で活躍するなど、明るい話題の多い一年でした。本市でも、新たな動きが見られました。旭警察署新庁舎の竣工や、海上町

時代からの悲願であった清瀧バイパスの開通、飯岡漁港を中心とする「海業」の推進に向けた協議会の設立、自治体では全国初となる「ロケ弁グランプリin旭市」も開催されました。

また、子ども・子育て支援では、ファミリー・サポート・センターや病児保育施設が新たに開設されました。子育て世帯に対する支援の充実に取り組む中、本市の合計特殊出生率が県内第3位にランクインしたという知らせも届き、各種計画に沿ったまちづくりが実を結び始めたことを、大変うれしく思います。

本年も、進めてきた施策が形となつてまいります。施設の再編では、中央第二保育所とゆたか保育所を統合した「ふたば保育所」や、海上・飯岡消防分署を統合した「東部分署」が間もなく竣工を迎えます。また、小・中学校の再編では、干潟地域にある3つの小学校を統合した「ひかた椿小学校」の開校に向け、改修事業に着手したところで

4月には、いよいよ「第3期旭市総合戦略」がスタートします。持続可能なまちづくりに向け、デジタル技術の活用やSDGsの視点も踏まえ、子ども・子育て支援や人口減少対策、産業振興や道路整備など、幅広く事業を展開してまいります。

そして、7月1日には合併から20年の節目を迎えます。まちづくりに尽力いただいた先人に感謝するとともに、記念の年を市民の皆さまと、さまざまな場で祝いたいと考えています。次の10年、20年に向けた新たな一歩を踏み出すべく、本年も「チーム旭・オール旭」でまちづくりを進めてまいりますので、さらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



旭市の未来を創る活力ある市議会の 実現を目指して



旭市議会議長

飯嶋 正利

明けましておめでとうございます。
市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日頃より市議会活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が市議会議長に就任してから一年余りが過ぎました。引き続き市民のための行動力で、広く市民の皆さまの声を聴きながら、議会運営に努めてまいります。

さて、昨今の社会情勢に目を向けますと、国際的な安全保障の不安定化が、

貿易やエネルギー供給などの世界経済に大きな影響を及ぼしています。国内でもエネルギー価格の高騰が物価の上昇に波及しており、生活の質を守るための対策が求められています。また、少子・高齢化や働き手の不足といった課題に対しても、継続的な取り組みが必要となっています。

地方分権の進展や社会経済の急速な変化を背景に、地方議会の果たすべき役割と責任はさらに重要性を増しており、多様化する民意の集約と市政への反映が期待されています。しかしながら、地方議会は性別や年齢層の偏り、議員のなり手不足の深刻化、低投票率に見られる議会への関心の低下などの課題に直面しています。

市議会では、幅広い人材の参画に向けて、議案質疑や一般質問といった本会議の様子をインターネットで生中継しています。また、本会議や委員会での議案審議や一般質問など、議会活動や議論の結果を分かりやすく掲載した「ぎかいTIMES」を発行し、ホームページやLINEで発信するなど、

より多くの方々に情報を届けるよう努めています。

このほか、議会運営の効率化や議会活動の活発化を図るため、タブレット端末を活用した会議のペーパーレス化も進めています。

これらの取り組みにより、市議会への関心がより一層高まることを期待しています。そして、多様な人材が市議会議員に挑戦することで、市民の負託に応える大きな力となり、旭市の未来を創る活力ある市議会の実現を目指してまいります。

結びに、皆さまにとって本年が幸せで実りの多い、大いなる飛躍の年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

